

プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

2011年1月4日号 (Vol.13)



主な記事

はじめに

1. 三條課長、CDCD プロジェクトを訪問

2. プロジェクト進捗

2.1 キャパシティアセスメント

2.2 パイロットプロジェクト支援

2.3 パイロットプロジェクト事例紹介

2.4 農道・カルバート改修工事

2.5 研修計画

3. コラム

3.1 シエラのチカラ：カンビアビューティコンテスト

3.2 シエラのチカラ：カンビア県にもある美しいビーチ

*プロジェクトHPにもアクセスください：<http://www.iica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>



シエラレオネ



プロジェクト対象県

はじめに：ーモデルワードを選ぶパイロットプロジェクトはこれからが山場ー

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

アフリカ諸国では、12月と1月共に日中30度を越える場合が多く、日本の年末年始の季節感を感じることはありませんが、爆竹やパーティの騒音でその雰囲気を多少なりとも味わいます。

シエラレオネでは、本プロジェクトは英語名に由来した「CDCD プロジェクト」という名で、プロジェクト関係者や一般の人々に浸透しています。CDCD プロジェクトでは、シエラレオネ政府が推進する地方自治法に沿い、地方行政（県議会）とコミュニティ代表（ワード委員会）が協働して進める地域開発事業（パイロットプロジェクトとモデルプロジェクトに分かれています）を支援しています。コミュニティインフラを改修し生活改善を推進することだけでなく、事業の計画から完了までのプロセスをチェックし、地方行政のサービスデリバリーの強化とコミュニティの地域開発能力向上を推進します。これら現場活動で得られた成果・教訓を元に「こうすれば、地方行政とコミュニティ代表者が協働してもっと効果的に、効率的に地域開発を実施できます」という提言を年次報告書や地域開発ハンドブックにま



コミュニティ代表者に働きかける県議会職員（右）と久保嶋専門家（左）

とめます。また、シエラレオネの地域開発の政策および地方自治法の改訂に貢献します。これらの成果品を元にCDCDプロジェクトで推奨する地域開発モデルを他の県に普及することを目指しています。

本プロジェクトでは、2県にある32のワードでパイロットプロジェクトを実施しています。県議会とワード委員会が協働して、パイロットプロジェクトの計画から完了させるまでのプロセスをアセスメントし、今年はいよいよモデルワードを選びます。

モデルワードを選ぶパイロットプロジェクトは2011年3月末までに完了する予定です。フィーダー道路改修工事にあわせ、支援する事業の数はプロジェクト実施期間である5年間で最も多く、専門家とカウンターパート共に最も忙しい時期のひとつを迎えます。同時に、県議会のサービスデリバリー強化に必要なものは何か、ワード委員会の実態や能力はどうか、など現場活動を通じてしか得られない貴重な成果や教訓など多くの地域開発モデル構築のエッセンスを収集できる時期でもあります。

(平林リーダー)

ニュース1：三條課長、CDCDプロジェクトを訪問

2010年12月8日から12月11日の日程で、CDCDプロジェクトの主管部であるJICA本部経済基盤開発部から三條課長がシエラレオネを訪問しました。短い期間ではありましたが、カウンターパートである地方自治地域開発省、ポートルコ県、カンビア県議会関係者の表敬、CDCDプロジェクトの活動現場視察を精力的にこなしました。



地方自治地域開発省副大臣（右奥）と次官（右手前）を表敬する三條課長（左）

2010年12月初旬の内閣改造に伴い、内務地方自治地域開発省が地方自治地域開発省となり、新しくプロジェクトダイレクターとなったKaloko副大臣を表敬しました。三條課長から、これまでの精力的なカウンターパートの協力への謝辞と今後のさらなる期待が伝えられました。

同日午後、地方に移動しポートルコ県、カンビア県両県議会を表敬後、モデルワードを選ぶためのパイロットプロジェクトの現場を視察しました。ポートルコ県の建設途中の市場倉庫建設、カンビア県の小学校建設現場を訪れ、専門家が県議会職員を支援し、どのようにコミュニティ代表者に働きかけ、一つ一つの課題に取り組んでいるのか、確認しました。また、ポートルコ県では、完成した市場整備の引き渡し式に参加しました。「これから県議会とコミュニティが共同して整備した市場の維持管理を行い、末永く活用して欲しい」とのメッセージをコミュニティ代表者に伝えました。（今回、三條課長が視察した事例紹介は、本プロジェクトニュース「2.3パイロットプロジェクト事例紹介」記事をご一読ください。）

CDCDプロジェクトの活動現場を視察中、一貫して同行した本省広報官の取材協力により、三條課長のプロジェクト訪問が現地全国紙に掲載されました。本省の協力に心から感謝申し上げます。（平林リーダー）



コミュニティ代表者へのインタビューに聞き入る（左）、小学校建設現場でコミュニティを激励（中央）、パイロットプロジェクト「市場整備」のコミュニティへの引渡し式参加（右）

ニュース 2 : プロジェクト進捗

2010年12月は非常に多くの活動がありました。残り21件全てのパイロットプロジェクト契約締結までのプロセスで専門家はカウンターパート・コミュニティ代表者との調整・助言に奔走しました。農道改修工事実施は県議会と調整しつつ、シエラレオネ政府の調達法に沿い、業者選定を行いました。このプロセスも非常に骨が折れます。では、ここで日々活躍する各専門家の活動と事業の進捗状況をお伝えします。(編集長)

2010年度実施予定の主な事業		
主な事業	予定	進捗状況
コミュニティ開発：パイロットプロジェクト実施を通じたワード委員会のキャパシティアセスメント	32件(社会・経済基盤整備) カンビア県25件、ポートロコ県7件	フェーズ1&2(11件): 8件完了, 3件実施中 フェーズ3&4(21件): 全21件契約締結(2011年工事開始予定)
フィーダー道路・カルバート改修工事	フェーズ1第1ターム(2011年5月末まで) カンビア県: フィーダー道路計17Km, カルバート13箇所 ポートロコ県: フィーダー道路12.7Km, カルバート7箇所	業者選定完了(2011年1月工事開始予定)

2.1 キャパシティアセスメント –モデルワードを選定するためのパイロットプロジェクト–

今回の業務期間中は、モデルワード選定の際にポイントとなるワード委員会、プロジェクト運営委員会(PMC)のキャパシティアセスメントについて前専門家からの引き継ぎと今後の調査の土台を固める作業を中心に実施しました。

工事が遅れている3ワードでは現在も工事が行われています。2011年1月から実施予定のパイロットプロジェクトフェーズ3・4(対象21ワード)の事業内容がほぼ確定し、ワード委員会、PMCのメンバー構成やワードの状況がわかってきたところです。

パイロットプロジェクトの工事が開始されると、モニタリング活動が主要な活動になります。このモニタリングはワード委員会、PMCがどのようにパイロットプロジェクトを実施したのかを知るために重要な手段となります。ここで得られた情報は、キャパシティアセスメントのための重要な材料でもあります。

フェーズ3・4では、県議会職員がメインとなりモニタリングを実施する体制を整備する予定で、着々と準備を進めています。モニタリングの担当職員が両県議会の主席行政官より任命され、カンビア県議会では2名、ポートロコ県議会では1名の担当者が決定しました。



県議会職員へモニタリングについて説明する反町専門家



主席行政官からアセスメントの担当者が任命される。

今後は、彼らとともにパイロットプロジェクトにおいてワード委員会、PMC、コミュニティの活動を調査し、アセスメントに必要な情報の収集とともに、パイロットプロジェクトの成功要因、問題などの分析をしていく予定です。

(反町専門家：キャパシティアセスメント/コミュニティ開発担当)

2.2 パイロットプロジェクト支援 –あらゆる手を使ってカウンターパートのモチベーションを維持する–

12月も下旬に入り、ようやく残りのパイロットプロジェクト21件の契約が締結されました。現場での調査をもとにカウンターパートである県議会のエンジニアが中心になって設計・積算を行いますが、その作業が難航しました。県議会のエンジニアは2010年から創られた新しいポストです。カンビア県、ポートロコ県のエンジニアも今年7月に着任したばかりです。彼らは着任早々、様々な組織・ドナーからのトレーニングやワークショップに引っ張りだこです。そのためパイロットプロジェクトの設計・積算の進捗が遅れることも度々ありました。我々が支援している業務の一つは、県議会職員に実際の業務を通じて、スキルや知識を高めてもらう(OJT)事ですから、プロジェクトが主導で物事を進めていくわけにはいきません。そのため、あの手この手を使って県議会職員をプロジェクトの業務に引っ張り出します。

例えば、ポートロコ県のエンジニアは、パイロットプロジェクトの設計・積算業務を担当していますが、口癖のように「順調に進んでる。期日には余裕で間に合うよ」などと言っていました。しかし、期日が近づくにつれ「報酬がないから、やらない」と言い出すようになり、しまいには「そもそもこれは俺の仕事じゃない。プロジェクトでやればいいでしょ」と逆切れをする始末でした。そのため、時には文書で彼のポストにあたる主席執行官に懸念を伝えたり、また褒めちぎっておだてたりしながら、少しずつ進めていきます。しかしながら、それでも進まない場合は、プロジェクトで設計・積算のやり方を見せて、学んでもらう、そして段階的に彼らの主体的な取り組みを増やしていく、という手段をとることになります。



調査に奮闘する県議会エンジニア

パイロットプロジェクトの契約後は、資材の調達が始まるので県議会の調達官の出番です。2011年の1月中旬に工事着工になると、進捗を確認するため、今度は県議会のモニタリング担当官や上記エンジニアがさらに活躍する舞台となります。彼らが奮闘し、地方行政のサービスデリバリーが改善されるように、あの手この手を駆使して彼らのモチベーションを維持することが、我々に託された、実は一番難しい課題です。

(久保嶋専門家：コミュニティ開発担当)

2.3 パイロットプロジェクトの事例紹介

今回のプロジェクトニュースからプロジェクト活動の事例紹介をお伝えします。モデルワードを選ぶプロセスである小規模のパイロットプロジェクト。県議会とコミュニティが協働して、パイロットプロジェクトを計画し、完了させるまでのプロセスに多くの課題があるからこそ、プロジェクト専門家が必要な助言・指導を日々続けています。

パイロットプロジェクトが完了するまでにどのような課題に直面したか、そしてどのように課題を解決したか、を把握すること。そして、一連のプロセスを通じて得られた成果、課題をまとめて、シエラレオネ政府の政策・法律改訂に貢献すること、また、プロジェクト活動を通じて得られた教訓・成果をまとめて、より効率的・効果的な地域開発モデルをシエラレオネ政府に提言することが本プロジェクトの目的のひとつです。

では今回の事例紹介は久保嶋専門家（コミュニティ開発）から伝えていただきます。（編集長）

事例①：マーケットの日を迎えるまで 市場整地プロジェクトの場合（ポートルコ県ワード 177）

ポートルコ県ワード 177 では市場用地の整地と隣接するトイレの建設をプロジェクトに選択しました。ブルドーザーをレンタルする予定で、整地に関しては1週間もかからず終了する予定でした。しかし、メンテナン



草木の茂った市場予定地（左）、整地後の市場（中央）、毎週火曜日のマーケットの日。普段からは想像できないほどの人と物の多さ（右）

スの習慣がないお国柄、当てにしていたブルドーザーが動かず、予想以上の遅れに直面しました。整地された市場用地を期待していた我々は、何の手もつけられていない用地を見て啞然としたのを覚えています。

そこで急遽、契約を変更し、つるはしなどの道具を提供し、手作業による整地作業へと切り替えました。手作業による作業も難航しましたが、その後、運よく道路工事の会社からの厚意でブルドーザーを借りることができ、整地作業は完了しました。

12月初頭ようやく市場がオープンしましたが、ポートルコ県でも一番大きい市場となったそうです。



マーケットの日は、プロジェクトの看板が隠れてしまうほどの賑わい。

事例②：コミュニティの動員がカギ：小学校建設の場合（カンビア県ワード 121）

カンビア県ワード 121 のパイロットプロジェクトは小学校の建設です。8月には完成予定でしたが、今年も暮れようとしている今になっても完成していません。すでに校舎そのものは建ち、屋根も取り付けられ、外装のセメント塗りも終わっていますが、内側のセメントと床のセメント塗りが残っています。

本パイロットプロジェクトはコミュニティの負担分の割合が極端に大きかったので開始前から懸念はありましたが、議員・コミュニティからの強い陳情を受けて県議会もしぶしぶ承認したという経緯があります。しかし、ふたを開けてみるとやはりコミュニティからの資金が集まらず、



小学校に通う子どもたち

進捗が遅れています。予定していた PTA からの貢献金もまったく集まっていないそうです。聞くところによると、PTA が議員をはじめとするプロジェクト運営委員会がプロジェクト資金を着服したと勘違いしているようで、そのために予定していた貢献をしていないとのことでした。



現在使用している小学校（左）、パイロットプロジェクトで建設中の小学校：既存小学校に隣接（中央）、コミュニティ代表者と協議する県議会（右）

プロジェクトとしても県議会に働きかけ、地元の権威者（パラマウントチーフ）の力を借り、PTA との誤解を解き、予定していたコミュニティの負担を実行してもらうように働きかけを続けています。

（久保嶋専門家：コミュニティ開発担当）

2.4 農道道路・カルバート改修工事 一道は開けるか？前半の山場：業者を選定しましたー

シエラレオネの道路事情は決して良いとは言えません。特に北部に位置するポートルコ県、カンビア県内の道路は、アスファルト舗装は皆無で、しかも穴だらけです。これが、両県の発展を阻害していると言っても過言ではなく、フィーダー道路の改修は開発計画の中でも優先度が高い分野です。

このような状況の中で、カンビア県、ポートルコ県の道路網の改良とカウンターパートである県議会職員の実施能力の向上のためにプロジェクトは進んでいます。実施能力の向上のために、相手国政府の調達制度に則り、県議会の主体の上に作業を実施しています。この 12 月後半に、プロジェクトチームと協同で、プロジェクト前半の山場、11 月に公示した両県の改修工事の入札において、業者の選定をしました。



県議会職員による開札

業者の選定は、調達法にある①開札、②評価委員会による応札書の評価、③調達委員会による選定された業者の承認、のステップに従いました。

まずポートルコ県で 20 日 12 時から開札しました。1 ロットに 6 社が応札、1 社ずつ、所定の書類があるか確認し、応札価格を読み上げます。ここでは、落札者を確定せず、後日評価委員会で書類の審査をし、調達委員会を経て決定します。開札での主役は調達官。1 社ずつ封を開き、書類の有無を確かめ、参加者に確認します。シエラの調達法に則っているので、慣れているはずですが、書類を探すのに手間取り、6 社に 1 時間半かかりました。



ポートルコ県議会の開札（左）、県議会職員と共に書類を確認する宿谷専門家（右）

カンビア県は、21日12時20分から3ロット14応札図書について、開札しました。この調達官は、マラリアを押しての出席でしたが、非常にスムーズにやはり1時間半で終了しました。普段は、ボーっとみえる彼ですが、プロ意識を感じました。

その次は評価委員会による応札図書の評価です。各県とも3人の技術者が評価委員として選ばれ、13項目の基準について入札図書通りに提出されているかどうか確認しました。これも、丁寧に見やすく提出されている訳でなく、ばらばらに散乱している書類が多く、評価するのに一苦労でした。きれいにそろえて提出した社があると、それだけでパスさせたくくなります。評価者内でも喧々諤々でしたが、その中でもカンビア県のエンジニアは、両県の評価に参加し、最後は書類の審査に慣れて手際よく確認をしていました。OJTとして非常に有効でした。



マラリアを押して出席した調達官（中央）

評価の結果は、両県合わせて20応札書がありましたが、すべての項目をパスした社は最終的には皆無でした。評価委員会としては、調達法に則り、比較的エラーの少ない社の中で、価格的に見合う社を推薦しました。

最後に、調達委員会です。県の主席行政官を議長とし、評価委員会が出した評価レポートを照査し、推薦された業者が妥当かどうか議論します。評価者はこの委員会に参加できますが、あくまでもオブザーバーとしての参加になります。さて、カンビア県は委員から数項目の確認がありましたが、評価委員会の推薦業者が承認されました。しかし、ポートルココ県では、議論が白熱しました。これには伏線がありました。実は、調達委員会の前に、評価委員会の推薦した業者が落札したとの噂が出回り、主席行政官にも多方から連絡が入り、非常に困惑したとのことでした。結局噂の出所は分かりませんでしたが、そのため、調達委員会でも丹念に結果を確認しました。結果は、評価委員会でも再度応札書を見直し、最終的には評価委員会の推薦した社ともう1社が残りました。再度、2社によって評価項目を見直し、参加者全員の合意の下、別の業者を選定しました。これで、正式に両県合わせて4社の落札業者が決定しました。

最後まで、厳しく評価を見直し、皆で納得の上で選定。ポートルココ県の調達委員会の議長の主席行政官は最後にボソッと、ウソかホントか分かりませんが、「それでも、俺は残ったもう1社が良かった。なぜなら、オーナーが女性だから、全体のジェンダーバランスを考えて…」。調達制度に則り、議長の私的な意見を取り入れず、システム的に選定する過程にシエラの力を感じました。

入札から業者までの過程において、教訓・修正点はあるものの、それはプロジェクトを通じて、今後の道路改修事業の実施に役立つでしょう。また、今回はプロジェクト期間の制限もあり、年末という忙しい中2週間で業者を選定しましたが、県議会関係者は皆熱心に作業をしていました。

ようやく、工事開始までの「道」が開けてきました。この後は、JICA内部の手続きを経て、1月半ばに契約書に署名、1月下旬頃より現場工事の開始予定です。今後、施工監理でも県議会がどのような活躍を見せるか、非常に楽しみです。

(宿谷専門家：調達制度・道路計画担当)

2.5 研修計画 —動き始めた研修計画—

2010年4月末に着任し既に8ヶ月が経とうとしていますが、ここ最近になりやっと研修計画業務に明るい兆しが見えはじめました。着任当時、カウンターパートである県議会に研修担当を主業務とする職員がいませんでした。しかし、2010年8月頃、新たに人事官（Human Resource Officer：以後、HR担当）が県議会に配置されました。当該事務官もやっと県議会の業務に慣れてきた為、そろそろ研修担当としてのエンジンがかかり始めてきたようです。

本プロジェクト専門家/ナショナルスタッフ、ワード委員会、県議会職員から研修ニーズの聞き取り調査を行い、研修内容の案は既に用意をしてあります。次のステップはHR担当へのOJTも兼ねて、以下の事柄を踏まえた上で研修案の選別を行い、暫定的な研修予定案を作成することになります。

【研修計画作成時の留意点】

1. 県議会の組織図を理解する
2. 各部門の役割を把握し、配置要員の必要スキルを把握する
3. 各要員の研修受講履歴を作り、各個人のスキル把握をする
4. 現在の研修計画を確認する
5. 必要な研修内容を絞り込む

上記の留意点でハードルが高いのは、「3.」と「4.」になります。



人事官に指導する吉野専門家

現時点で、「どの要員がどのような研修に参加したか」を確認する資料は一切ありません。また現在、県議会の研修計画は地方分権化事務局（Decentralization Secretariat：DECSEC）という機関も支援をしていますが、研修/トレーニングの年間スケジュールはあるとは思われるものの、県議会事務所とその共有がなされていないため近い将来どのような研修が計画されているのかも不明です。

今後は私の頼もしきカウンターパートHR担当と共に現状を打破し、効果的な研修計画を作り上げていきたいと考えております。次回は、コンピュータ研修についてご報告の予定です。

（吉野専門家：業務調整/研修計画担当）

コラム：シエラのチカラ —カンビアビューティーコンテスト— by 反町早季 専門家

11月最後の土曜日、カンビアの一大イベント！？であるカンビアビューティーコンテストが開催されました。同コンテスト主催者から依頼を受け、CDCDプロジェクトを代表し、審査員を務めてきました。その模様をレポートします。

出場者は4人、カンビア県の4つのチーフダム・ミスが出場。チーフダム・ミスからカンビアのミスが決定するのです。コンテストは、キャットウォークに始まり、カジュアル、ビレッジ、アフリカン、オフィス、ビーチ、パーティーの7種類のドレス審査とタレントショー、県議会・保健に関する問題を選択回答の合計9項目で審査が行われました。なかなか欲張りな内容です。



会場は満員！

それにしてもミスカンビアには県議会・保健の知識が必要なのか！？と審査員に配布された問題一覧を眺めると、「JICAの正式名称は？」という問題を発見！これには感激です。

さて、4人のミスカンビア候補によるビューティーコンテストは、気合の入ったドレスだけではなく、ドレスに合わせたパフォーマンスもコンテストの見どころです。様々な小道具を駆使したパフォーマンスは、審査員参加型で行われます。

審査員は懐中電灯で衣装を照らして出来栄をチェックし、パフォーマンスも入念に観察。審査前に誓いのコトバを述べているのでみな真剣です。これはかなりのプレッシャーのはずです。

しかし、4人のミス候補は審査員のプレッシャーに負けず、審査員をパフォーマンスに巻き込みます。最初は乗り気でなかった審査員長もいつの間にか彼女たちのパフォーマンスに引き込まれ、去り際に笑顔で手を振られた際は、思わず手を振り返していました。さすがミスカンビア候補です。

結果はさておき5時間にわたり熱戦を繰り広げ、満員の観衆を魅了した彼女たちは間違いなくシエラのチカラでしょう。



審査結果を待つまでパーティドレスで踊る候補者たち。左から二人目がミスカンビア

コラム：シエラのチカラ –カンビア県にもある美しいビーチ– by 久保嶋 専門家

素晴らしいビーチがあるのはフリータウンだけではありません。なんと、カンビア県にも美しいビーチが広がっています。右の写真はサムチーフダムの大橋マポトロンからさらに奥に入った、キラバという漁村近くのビーチです。

ビーチでは残念ながらビールもロブスターも売っていませんでしたが、かわりに砂まみれの小魚が干されていました。ビーチなので水着姿で波に戯れる人たちを期待したのですが、腰巻の女性がたまに通るぐらいでした。カラフルなパラソルこそ見かけませんでしたが、かわりにどこからともなく漂着したという巨大なブイを見かけました。プロジェクトスタッフも初めてみるカンビアのビーチに大興奮でした。中年の県の議員たちといっしょに戯れ、駆け回るほどのはしゃぎぶりでした。

泳ぐのには適さないかもしれませんが、砂浜に腰掛け、遠くを歩き来する小船を見つめながら、このビーチにホテルが立ち並ぶようになるのはいつの日の事だろうかと、ふと物思いにふけてしまいました。

白く続くビーチ、紺碧の海、降り注ぐ太陽、そして干物の生臭い香り。そうです、ここはカンビアのビーチです。シエラのカここにあり！



(次号へ続く)

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上（CDCD）プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：内務地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートルココ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009年11月～2014年11月（5年間）

対象地域：カンビア県（25ワード：人口約30万人）、ポートルココ県（7ワード：人口約9万人）

カウンターパート：内務地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートルココ県議会

派遣専門家：平林リーダー、吉野業務調整/研修計画専門家、宿谷調達制度/道路計画専門家、久保嶋コミュニティ開発専門家、反町キャンペーン/アセスメント専門家（2010年12月実績）